

日本新聞における分野別「特徴語彙」の 考察

金直洙*

目次

1. 研究の目的
 2. 資料と語彙調査の基準
 3. 分野別「特徴語彙」の調査
 4. 語彙情報の作成と考察
 5. まとめと今後の課題
-
-

1. 研究の目的

今までの語彙研究、特に語彙選定においては、基本語彙¹⁾、基幹語彙²⁾など、主に基本的な語彙の選定に重点が置かれたことは事実である。それは、日本国内の国語教育、外国人のための日本語教育などに大事な役割を果たしてきた。それはそれで大事な意義を持っていると言えるが、もっと幅広い語彙習得、語彙教育のためには、基本的な語彙以外にも、ある分野の特徴的な性格を作るのに働く特徴語彙などの選定にも注目すべきであると思う。

* 우송대학교 일본학과 초빙교수, 일본어학.

- 1) 田中久直(1956)『学習基本語彙』(新光閣書店)の3,456語、中央教育研究所(1984)『学習基本語彙』(中央教育研究所)の4,323語、国立国語研究所(1984)『日本語教育のための基本語彙調査』(秀英出版)の6,060語などがある。
- 2) 林四郎(1971)「語彙調査と基幹語彙」(『電子計算機による国語研究Ⅲ』国立国語研究所)の新聞基幹語彙1,004語、土屋信一(1992)「基幹語彙の探索」(『文化言語学その提言と建設』三省堂)の高校社会科基幹語彙2,061語などがある。

そこで、本稿では、分野別の特徴語彙を確定するための基本的な作業として、総合的語彙資料である新聞を用いて、調査の時期、話題などに関わりなく、ある分野において特によく用いられながら、その分野の特徴を表す働きをする特徴語彙を選定する。そして、その語彙に対する種々の情報、たとえば、品詞、語種、意味分野、出現分野、頻度の高低、語が出現する例文などのいろんな情報が入ったデータを作り、中・上級の日本語学習者の語彙習得、語彙教育と、専門分野の語彙研究資料として役立てることを目的とする。

2. 資料と語彙調査の基準

複数の分野から、その分野の特徴的な語彙を選定する場合には、対象として用いる資料の量が多ければ多いほど、より客観的なデータが得られるのであるが、現実的には調査できる量を限定せざるを得ない。

そこで、本稿では、調査の分野を、政治、経済、社会、文化、スポーツ、教育の六つに限定して語彙調査を行うことにした。調査資料は、「朝日新聞」と「読売新聞」のインターネット版を利用する。調査期間は2006年12月の1ヶ月間で、週1回のペースで抽出調査を行った。調査の際、お互いに重ならないように日にちを異にして行った。各分野の記事数は以下のとおりである。

<表1> 各分野別の記事数

| 政治 | 経済 | 社会 | 文化 | スポーツ | 教育 |
|-----|-----|-----|-----|------|----|
| 115 | 150 | 124 | 120 | 163 | 65 |

そして、語彙調査の基準は、基本原則として、言語単位の一つである日本語の「文節」の概念を目安にする。その理由は、言葉の最も本質的なものである音声言語に基づいた概念であるので、わりあい安定しており、誰にも同等な基準で語彙調査ができる簡単な方法であるという判断からである。

具体的な方法としては、「文節」に基づいて文を分割し、その中をさらに自立語と附属語に分け、記号類と助詞・助動詞などの附属語を除外した自立語のみを選定の対象にした。数詞と固有名詞などの扱いは以下の基準に従う。

- (1) 外来語は認めるが、アラビア数字は除外する。その際、「～年、～歳、～枚」などの単位を表す語は一単位として扱う。

- (2) 固有名詞のうち、人名、地名、社名、学校名は除外し、その後ろに付く「～市、～県」などの行政区画名と、「～社長、～幹事長」などの官職名、「～さん、～氏、～ちゃん」などの接尾辞は一単位として扱う。
- (3) 団体名の中で「世界ボクシング協会（WBA）」のように、正式な名称を表す語とその略語が付いている場合は、(世界/ボクシング/協会/WBA)のように分けたのを一単位として扱う。

このような基準で語彙調査を行った結果、下記のような語が得られた。

<表2> 各分野別の語数

| 分野 語数 | 政治 | 経済 | 社会 | 文化 | スポーツ | 教育 |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 異語数 | 4,022 | 5,042 | 4,642 | 6,701 | 5,396 | 4,642 |
| 延語数 | 13,459 | 15,474 | 14,054 | 16,518 | 17,122 | 13,522 |

3. 分野別「特徴語彙」の調査

3.1 特徴語彙の概念

語彙を単語の集合であると定義した場合、その語彙には、広く、一言語体系に属するすべての単語を指す場合から、個々の言語資料、言語作品を構成する全単語を指す場合まで、様々な規模の語彙が考えられる。ある分野に関連する単語を集めて「～語彙」と称することがあり、その中には、わずか数語しかないということもあろうし、ほとんど無限大まであるということもある。現代日本語の語彙全体を知り尽くすことは、ある意味では不可能であろう。ただ、日本語の全体をできる限り幅広く調査すれば、いわゆる「集团的規範」³⁾としての語彙に近いものが得られるはずである。

それに対し、個々の言語作品や言語資料のような「個別の実現」⁴⁾としての語彙は、抽出調査により全体を推定することができるし、全数を調査して完全な語彙表の作成が可能である。その語彙表では、語数、個々の語の使用率、異語数と延語数などが把握できる。そして、その使用率を目安にして、ある語集団の中に、その集団の骨格のような部分として存在する「基幹語彙」⁵⁾と、ある作品、言語資料において特によく用いられ、その特

3) 田島毓堂 (1995) 「語彙論の課題—集团的規範と個別の実現—」(『名古屋大学国語国文学』71)

4) 注3) に同じ。

5) 林四郎 (1971) 「語彙調査と基幹語彙」(『電子計算機による国語研究Ⅲ』国立国語研究所) p. 2

徴を与える働きをする「基調語彙（テーマ語彙）」⁶⁾が選定できる。これらはいずれも語彙調査による使用率を基本的目安にして選定するのであるが、一つの語彙調査からは使用率順に並べた語が、その分野の特有のものか、他でも同様のものかは分からない。したがって、他の分野の語彙との比較対照を通じてのみ選定できるのである。

本稿の「特徴語彙」の概念は、総合的資料の一つである新聞の政治、経済、社会、文化、スポーツなどの分野のうち、ある一方の分野において特によく用いられ、その分野の特徴を表す働きをする語彙を示すのである。その意味で上記の「基調語彙（テーマ語彙）」の概念と共通するのである。

実際の語彙調査の結果を例に挙げたのが<表3>であるが、「こと」、「する」、「言う」のようにすべての分野において共通に現れるのは基本的な語彙になり、「与党」、「景気」、「容疑者」、「公演」などのように使用分野の狭い語は、その分野の特徴語彙になるのである。すなわち、ある分野において、基本語彙、基幹語彙になる普遍的な語彙を除いたあとに残るのがその分野の特徴的な語彙であると言える。

<表3>新聞の分野別分布

| 単語 | 政治 | 経済 | 社会 | 文化 | スポーツ | 教育 |
|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|
| こと | 192 | 107 | 115 | 141 | 85 | 172 |
| する | 125 | 96 | 133 | 152 | 81 | 153 |
| 言う | 29 | 16 | 96 | 89 | 25 | 66 |
| 与党 | 52 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 景気 | 0 | 23 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 容疑者 | 5 | 0 | 65 | 0 | 0 | 0 |
| 公演 | 0 | 0 | 0 | 14 | 0 | 0 |
| 優勝 | 0 | 0 | 0 | 0 | 76 | 0 |
| 補習 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 26 |

3.2 特徴語彙の選定

ある分野の語彙の選定には、使用頻度やその分布などの統計結果に基づいて客観的に選びだす方法と、統計的な手法によりながらも選定者の主観的判断に従って選ぶものとに大別される。林四郎（1971）の概念⁷⁾を用いて説明すると、「基幹語彙」と「基調語

6) 注5) に同じ。

7) 林四郎（1971）の五つの概念は次の通りである。

- (1) 基礎語彙—意味の論理的分析によって求められた半人工的な語彙
- (2) 基本語彙—特定目的のための「○○基本語彙」
- (3) 基準語彙—標準的社会人としての生活に必要な語彙
- (4) 基調語彙—特定作品の基調を作るのに働く語彙
- (5) 基幹語彙—ある語集団の基幹部として存在する語彙

彙」は前者に当たるもので、語彙調査により得られた使用頻度や分布などの統計結果を語彙選定にそのまま当てはめる選定方法であるのに対し、「基礎語彙」、「基本語彙」、「基準語彙」は統計的な手段に加え、選定者の一定の論理や判断、または経験に従って主観的に選びだす方法であると言える。

一般に、統計結果に基づいて選定する方法は客観的な基準で語彙が選定できるという長所があるものの、それだけに頼ってしまうと、調査資料の量と性格によって語彙が偏る可能性がある。また、主観的判断によって選定される語彙は、いろいろな意味分野にわたって、体系的、系統的な単語を集めることは可能であるが、選定者個人の判断や経験による偏りが生じ得る短所もある。

本稿の「特徴語彙」の選定においては、統計結果に基づいた客観的な基準による方法と、筆者の主観的判断による方法を用いて選定を試みる。そして、二つの基準によって選定された語彙に対して、すでに選定された基本的な語彙から検証して重なる部分の語彙は最終的な選定から除外する方針をとることとする。

1) 客観的な観点からの選定

統計的な手法による語彙選定において欠かせないのが使用頻度の「深さ」と分布の「広さ」である。使用頻度の「深さ」と分布の「広さ」からみて、頻度が高く、広い範囲にわたって出現する語は「基本語彙」または「基幹語彙」の候補になるのであり、頻度は高く、ある一方の分野にのみ出現する範囲の狭い語は、その分野の特徴語彙の候補になるのである。しかし、使用頻度の「深さ」の面において、頻度がどのぐらいになると高い語であると言えるのかの判断は難しいのであるが、その尺度として、累積使用率と累積異語率を用いて判断することとする。

まず、各分野の統計資料の語彙の使用率と語数との相関関係⁸⁾から見て、累積使用率60%以下までの語彙を選定の対象にする。この累積使用率というのは延語数から見る観点であるが、累積使用率60%以下までの語彙は、異語数から見る観点である累積異語率15%以下までの語彙とほぼ一致しており、この範囲の中に含まれる語彙は各分野においてよく使われる中・高頻度の語彙に属するものであると判断される。累積使用率60%以上の語彙は、今回の調査資料の量によって語彙が偏る可能性があるという判断から対象から除外した。

また、ある語がいくつの分野にわたって出現しているかを表す分布の「広さ」は、六つの分野の数をそのまま尺度とする。分布の「広さ」からの基本的な判断基準は、ある一方の分野にのみ出現する語彙を選定の対象にする。

8) 少数の使用率の極めて高い語と、多数の低頻度語およびただ1回しか使われない最低頻度語からなるという「Zipfの法則」がある。

2) 主観的な観点からの選定

上記の基準は満たしていない語の中で、たとえば、「党」という語は、政治(120)、経済(8)、社会(4)、文化(1)、教育(3)のように、五つの分野にわたって出現しているが、政治の分野の頻度が他と比べて著しく高い。このような語は主観的な判断から特徴語彙の選定対象に入れる。

3) 既存の基本的な語彙からの検証

上記の二つの基準によって選定の対象に入っている語彙のうち、すでに選定された「基本語彙」と「基幹語彙」から検証して重なる部分の語彙は最終的な選定から除外する。検証の対象として用いる基本語彙は、日本の国立国語研究所が選定した『日本語教育のための基本語彙調査』⁹⁾である。この資料は、外国人のための日本語教育の教育基本語彙として作られたもので、複数の専門家の判定によって選定されている。全体の語数6,060語のうち、「より基本的な語」とされている2,030語を検証資料として用いる。

しかし、上記の教育基本語彙の調査では、短い単位であるβ単位¹⁰⁾を採用しているため、「勉強する」、「分かりやすい」などの複合語を単純語に分割してしまうので、本稿の語彙調査の単位と食い違いが出てくる。そこで、本稿と同じ調査単位を採用して選定を行った、金直洙(2004)の「基幹語彙」¹¹⁾を検証資料として用いて最終的な検証を行い、その欠点を補うことにした。

上記の1)と2)の基準に従って調査を行い、各分野別の特徴語彙的なものであると判断される語を示すと、〈表4〉のとおりである。

〈表4〉客観・主観的判断による語

| 分野 区分 | 政治 | 経済 | 社会 | 文化 | スポーツ | 教育 |
|----------|------|------|------|------|------|------|
| 客観的判断 | 91語 | 175語 | 148語 | 144語 | 162語 | 101語 |
| 主観的判断 | 63語 | 79語 | 88語 | 76語 | 95語 | 65語 |
| 合計 | 154語 | 250語 | 236語 | 220語 | 257語 | 166語 |

〈表4〉を見ると、語彙調査の規模が大きい、スポーツ、経済、文化、社会の分野において特徴語彙的なものであると判断される語が多いことが分かるが、はたして、これらの語が各分野の特徴を表しているのかを検証するために、すでに選定された「基本語彙」と

9) 国立国語研究所(1984)『日本語教育のための基本語彙調査』(秀英出版)

10) β単位とは、和語の一次結合を除き、複合語は原則として単純語に分割し、付属語は助動詞「れる、られる、せる、させる」の類だけを調査単位に入れたものである。

11) 金直洙(2004)「日韓基幹語彙の比較研究—その選定および意味分野別構造分析を中心に—」(『比較語彙研究の試み11』語彙研究会)

「基幹語彙」から検証してみた。その結果、基本的な語彙と重なる語彙を示したのが<表5>と<表6>である。

<表5>客観的判断による選定で重なる語彙

| 区分 分野 | 客観的判断 | |
|----------|-------|---|
| | 語数 | 語例 |
| 政治 | 5 | 選挙、議会、根強い、派、労働者 |
| 経済 | 9 | 見極める、景気、工場、埋める、消費、円、資源、通貨、回復する |
| 社会 | 14 | ～行き、～様、～ミリグラム、大震災、無事、襲う、遺体、一家、刺す、罪、参る、現金、教会、ガラス |
| 文化 | 15 | 歌、結婚、裸、物語、美術、服、寺、性格、小説、役、屋根、町、現代、恋人、雑誌 |
| スポーツ | 10 | 球、金、跳ぶ、練習、勝負、自転車、敗れる、強さ、コーチ、サッカー |
| 教育 | 14 | 結論、雇う、公立、留学、物理、生徒たち、受験、試験、地理、天気、化学、学習、教科書、数学 |
| 合計 | | 67語 |

<表6>主観的判断による選定で重なる語彙

| 区分 分野 | 主観的判断 | |
|----------|-------|---|
| | 語数 | 語例 |
| 政治 | 14 | 各国、改正、改革、年金、党、道路、反対する、首相、議論、議員、政権、与党、焦点、国会 |
| 経済 | 16 | 買う、物価、商店街、需要、水準、輸出、市場、銀行、引き上げる、占める、株式、地価、販売、膨らむ、ドル、ビール |
| 社会 | 27 | 感謝、警察、怪我、倒れる、突然、連絡、命じる、事件、相当、雪、少女、少年、訴訟、首、運転、運転する、願う、調べる、両親、地震、被害、被害者、県、現場、火、届ける、駅 |
| 文化 | 37 | 街、感覚、建物、曲、公開、交際、今週、描く、舞台、文字、文化、放送、番組、部門、賞、世紀、演じる、映像、映画、音楽、印象、人気、作家、作品、着る、撮る、出版、話題、絵、観客、タイプ、テーマ、テレビ、ドラマ、ファン、メディア、ラジオ |
| スポーツ | 28 | ～秒、距離、攻撃、果たす、記録、大会、臨む、選手、勝利、勝つ、試合、銀、狙う、前半、組、組む、進出、破る、許す、後半、戦う、挙げる、ゴール、ゴルフ、スピード、チーム、トップ、レース |
| 教育 | 27 | 高校、高校生、課題、大学、勉強、生徒、小学校、小学生、授業、塾、資格、子供、中学、中学校、指導、親、親子、学校、学生、学ぶ、教師、教育、教える、いじめ、クラス、テスト、パソコン |
| 合計 | | 149語 |

<表5>と<表6>から分かるように、客観的判断による選定と主観的判断による選定から基本的な語彙と重なる語彙をふるい落とすことによって、調査資料の量と性格による偏りと、選定者の主観的判断による影響を大はばに避けた各分野における特徴的な語彙の選定が可能になったと言える。

以上のことから、日本の新聞における各分野別の「特徴語彙」を最終的に選定した。

それを示すとく表7>のとおりである。

<表7> 各分野別の特徴語彙

| 分野 区分 | 政治 | 経済 | 社会 | 文化 | スポーツ | 教育 |
|----------|------|------|------|------|------|------|
| 客観的判断 | 86語 | 166語 | 134語 | 129語 | 152語 | 87語 |
| 主観的判断 | 49語 | 63語 | 61語 | 39語 | 67語 | 38語 |
| 合計 | 135語 | 229語 | 195語 | 168語 | 219語 | 125語 |

4. 語彙情報の作成と考察

4. 1 語彙情報の作成

選定した語彙 (1,071語) に対して、品詞、語種、頻度、出現分野、意味分野などの種々の情報を作成する。<表8>は、各分野の上位20位までの語彙情報作成の例である。頻度の基準は、累積使用率30%以下までを「上位」、50%以下までを「中位」、60%以下までを「下位」に分けている。また、意味分野に対するコードは日本語の『分類語彙表』¹²⁾によるものである。例文は紙面の関係で省略した。

<表8> 語彙情報作成の例

| 見出し語 | 品詞 | 語種 | 頻度 | 分野 | 意味分野 |
|------|----|----|----|------|-------------------|
| ～校 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 教育 | .2630(社寺・学校) |
| ～年生 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 教育 | .1962(助数接辞) |
| ～番手 | 名詞 | 混種 | 上位 | スポーツ | .1902(数) |
| ～社 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 経済 | .2640(事務所・市場・駅など) |
| ～勝 | 名詞 | 漢語 | 上位 | スポーツ | .3570(勝敗) |
| ～月期 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 経済 | .1611(時機・時刻) |
| ～位 | 名詞 | 漢語 | 上位 | スポーツ | .1101(等級・系列) |
| ～丁目 | 名詞 | 混種 | 中位 | 社会 | .1962(助数接辞) |
| ～志望 | 名詞 | 漢語 | 中位 | 教育 | .3042(欲望・期待・失望) |
| ～敗 | 名詞 | 漢語 | 上位 | スポーツ | .3570(勝敗) |
| ～巻 | 名詞 | 漢語 | 中位 | 文化 | .1962(助数接辞) |
| ～戦 | 名詞 | 漢語 | 上位 | スポーツ | .3542(競争) |
| ～銭 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 経済 | .1962(助数接辞) |

12) 国立国語研究所 (2004) 『分類語彙表一増補改訂版』大日本図書

| | | | | | |
|-------|----|----|----|------|-------------------|
| ～ドル | 名詞 | 外来 | 上位 | 経済 | .1962(助数接辞) |
| ～ポイント | 名詞 | 外来 | 上位 | 経済 | .1962(助数接辞) |
| 6者協議 | 名詞 | 漢語 | 中位 | 政治 | .3133(会議・論議) |
| 歌舞伎 | 名詞 | 漢語 | 中位 | 文化 | .3240(演劇・映画) |
| 歌手 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 文化 | .2410(専門的・技術的職業) |
| 幹事長 | 名詞 | 漢語 | 中位 | 政治 | .2450(その他の仕手) |
| 改善 | 名詞 | 漢語 | 中位 | 経済 | .1500(作用・変化) |
| 決勝 | 名詞 | 漢語 | 上位 | スポーツ | .3542(競争) |
| 公明(党) | 名詞 | 漢語 | 上位 | 政治 | .2760(同盟・団体) |
| 公務員 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 政治 | .2400(成員・職) |
| 公演 | 名詞 | 漢語 | 中位 | 文化 | .3833(興行) |
| 今季 | 名詞 | 漢語 | 上位 | スポーツ | .1641(現在) |
| 談合 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 社会 | .3133(会議・論議) |
| 党内 | 名詞 | 漢語 | 中位 | 政治 | .1770(内外) |
| 大学院 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 教育 | .2630(社寺・学校) |
| 道路整備 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 政治 | .3850(設備・修理) |
| 都教委 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 教育 | .2730(議会) |
| 同署 | 名詞 | 漢語 | 中位 | 社会 | .2720(公共機関) |
| 東証 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 経済 | .2640(事務所・市場・駅など) |
| 連覇 | 名詞 | 漢語 | 上位 | スポーツ | .3570(勝敗) |
| 理科総合 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 教育 | .3074(学問・学科) |
| 利上げ | 名詞 | 混種 | 上位 | 経済 | .3730(価格・費用) |
| 履修漏れ | 名詞 | 混種 | 上位 | 教育 | .1931(過不足) |
| 無職 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 社会 | .3320(労働・作業・休暇) |
| 文科省 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 教育 | .2710(政府機関) |
| 文部科学省 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 教育 | .2710(政府機関) |
| 美 | 名詞 | 漢語 | 中位 | 文化 | .1345(美醜) |
| 美術館 | 名詞 | 漢語 | 中位 | 文化 | .2650(店・旅館・劇場など) |
| 民主(党) | 名詞 | 漢語 | 上位 | 政治 | .2760(同盟・団体) |
| 放送する | 動詞 | 混種 | 中位 | 文化 | .3123(通信) |
| 俳優 | 名詞 | 漢語 | 中位 | 文化 | .2410(専門的・技術的職業) |
| 法案 | 名詞 | 漢語 | 中位 | 政治 | .3084(計画・案) |
| 補習 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 教育 | .3050(学習・習慣・記憶) |
| 保育所 | 名詞 | 漢語 | 中位 | 教育 | .2630(社寺・学校) |
| 保護者 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 教育 | .2450(その他の仕手) |
| 私立 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 教育 | .1220(成立) |
| 死亡 | 名詞 | 漢語 | 中位 | 社会 | .5702(死) |
| 死亡する | 動詞 | 混種 | 中位 | 社会 | .5702(死) |
| 上昇 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 経済 | .1540(上がり・下がり) |
| 署 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 社会 | .2720(公共機関) |
| 世界選手権 | 名詞 | 漢語 | 上位 | スポーツ | .3542(競争) |

| | | | | | |
|-------|----|----|----|------|-------------------|
| 手掛ける | 動詞 | 固有 | 中位 | 文化 | .3050(学習・習慣・記憶) |
| 首位 | 名詞 | 漢語 | 上位 | スポーツ | .1690(場合) |
| 視聴率 | 名詞 | 漢語 | 中位 | 文化 | .1930(差・比・率など) |
| 新作 | 名詞 | 漢語 | 中位 | 文化 | .3200(創作・著述) |
| 業界 | 名詞 | 漢語 | 中位 | 経済 | .2600(社会・世界) |
| 円高 | 名詞 | 混種 | 上位 | 経済 | .3710(経済・収支) |
| 演出 | 名詞 | 漢語 | 中位 | 文化 | .3240(演劇・映画) |
| 外相 | 名詞 | 漢語 | 中位 | 政治 | .2411(管理的・書記的職業) |
| 容疑 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 社会 | .3061(思考・認知・区別) |
| 容疑者 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 社会 | .2450(その他の仕事) |
| 優勝 | 名詞 | 漢語 | 上位 | スポーツ | .3570(勝敗) |
| 優勝する | 動詞 | 混種 | 上位 | スポーツ | .3570(勝敗) |
| 違反 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 社会 | .3440(犯罪・罪) |
| 疑い | 名詞 | 固有 | 上位 | 社会 | .3061(思考・認知・区別) |
| 一般財源化 | 名詞 | 漢語 | 中位 | 政治 | .1500(作用・変化) |
| 日経平均 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 経済 | .3730(価格・費用) |
| 自民(党) | 名詞 | 漢語 | 上位 | 政治 | .2760(同盟・団体) |
| 全日本 | 名詞 | 漢語 | 上位 | スポーツ | .2590(固有名詞) |
| 前知事 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 社会 | .2411(管理的・書記的職業) |
| 制する | 動詞 | 混種 | 上位 | スポーツ | .3670(命令・制約・服従) |
| 調べ | 名詞 | 固有 | 上位 | 社会 | .3065(試験・調査・検査など) |
| 終値 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 経済 | .3730(価格・費用) |
| 株式市場 | 名詞 | 混種 | 上位 | 経済 | .2600(社会・世界) |
| 主演 | 名詞 | 漢語 | 中位 | 文化 | .3833(興行) |
| 両社 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 経済 | .2640(事務所・市場・駅など) |
| 知事選 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 政治 | .3630(人事) |
| 地裁 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 社会 | .2710(政府機関) |
| 懲役 | 名詞 | 漢語 | 中位 | 社会 | .3320(労働・作業・休暇) |
| 差 | 名詞 | 漢語 | 上位 | スポーツ | .1130(異同・類似) |
| 逮捕 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 社会 | .3613(捕縛・釈放) |
| 逮捕する | 動詞 | 混種 | 上位 | 社会 | .3613(捕縛・釈放) |
| 撮影 | 名詞 | 漢語 | 中位 | 文化 | .3851(塗り・録音・撮影) |
| 追加利上げ | 名詞 | 混種 | 上位 | 経済 | .3730(価格・費用) |
| 出演 | 名詞 | 漢語 | 中位 | 文化 | .3833(興行) |
| 出演する | 動詞 | 混種 | 上位 | 文化 | .3833(興行) |
| 取引 | 名詞 | 固有 | 上位 | 経済 | .3760(取引) |
| 参院 | 名詞 | 漢語 | 中位 | 政治 | .2730(議会) |
| 参院選 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 政治 | .3630(人事) |
| 双子 | 名詞 | 漢語 | 中位 | 文化 | .2130(子・子孫) |
| 通算 | 名詞 | 漢語 | 上位 | スポーツ | .3064(測定・計算) |
| 通常国会 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 政治 | .2730(議会) |

| | | | | | |
|--------|----|----|----|------|-------------------|
| 国家公務員 | 名詞 | 漢語 | 中位 | 政治 | .2400(成員・職) |
| 国連 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 政治 | .2750(国際機構) |
| 特定財源 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 政治 | .3721(資本・金銭) |
| 判決 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 社会 | .3067(決心・解決・決定) |
| 標準額 | 名詞 | 漢語 | 中位 | 教育 | .3730(価格・費用) |
| 被告 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 社会 | .2450(その他の仕手) |
| 県警 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 社会 | .2720(公共機関) |
| 県教委 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 教育 | .2730(議会) |
| 協議 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 政治 | .3133(会議・論議) |
| 紅白歌合戦 | 名詞 | 漢語 | 中位 | 文化 | .3542(競争) |
| 獲得する | 動詞 | 混種 | 上位 | スポーツ | .3700(取得) |
| 学習指導要領 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 教育 | .3070(意味・問題・趣旨など) |
| 教員 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 教育 | .2410(専門的・技術的職業) |
| 教委 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 教育 | .2730(議会) |
| 教諭 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 教育 | .2410(専門的・技術的職業) |
| 教育委員会 | 名詞 | 漢語 | 中位 | 教育 | .2730(議会) |
| 総裁 | 名詞 | 漢語 | 上位 | 経済 | .2430(長) |
| FW | 名詞 | 外来 | 上位 | スポーツ | .2450(その他の仕手) |
| TOPIX | 名詞 | 外来 | 上位 | 経済 | .1902(数) |
| W杯 | 名詞 | 混種 | 上位 | スポーツ | .3510(集会) |
| アジア大会 | 名詞 | 混種 | 上位 | スポーツ | .3510(集会) |
| イラク | 名詞 | 外来 | 上位 | 政治 | .2590(固有名詞) |
| グループ | 名詞 | 外来 | 上位 | 経済 | .1951(群・全体・部分) |
| ドレス | 名詞 | 外来 | 中位 | 文化 | .4210(衣服) |
| ブランド | 名詞 | 外来 | 中位 | 文化 | .3102(名) |

〈表8〉のようなデータから、各分野別特徴語彙の品詞別、語種別、意味分野別の情報と共に、どのような分野でよく使われるかの分野別の情報と、高頻度の語であるか低頻度の語であるかの総合的な情報が把握できるのである。そして、このデータを用いて、他の分野、または他言語の語彙との比較対照が可能になるのである。

以下においては、特徴語彙の情報データを用いて、各分野の品詞別、語種別、意味分野別の特徴を考察してみる。

4. 2 品詞別と語種別構造からの考察

〈表9〉は特徴語彙の品詞別からの構成であるが、名詞、動詞、形容動詞の三つの品詞が現れており、そのうち、名詞の占める割合が非常に高く、その次は、動詞、形容詞の順になっている。上記の『日本語教育のための基本語彙調査』の2,030語の品詞別構成は、名詞(62%)、動詞(21.5%)、その他(16.5%)の割合になっているが、特徴語彙は、名詞がほぼ90%を超えており、動詞の割合はほとんどが10%以下になってい

る。これは新聞という資料の特性上、名詞の使われる割合は他の資料より当然高いのではあるが、特に各分野の特有の意味を表すのに名詞は大きな役割をしていると言える。動詞の割合においては、文化、スポーツ、社会の分野の割合が他よりやや高くなっているが、その語構成を見てみると「上演する、優勝する、逮捕する」のように、その分野特有の名詞語彙と「する」が結合した語構成を持つ語が多い。各分野の動詞語彙を示すと以下のとおりである。

(政治)

明記する、了承する、推薦する、改正する、擁立する、一般財源化する、落選する、立候補する、採択する

(経済)

上昇する、発行する、改善する、設立する、下方修正する、好感する、売却する、買収する、優先する、続伸する、期待できる、生産する、水増しする、引ける、低下する

(社会)

逮捕する、死亡する、跳ねる、騙し取る、殺害する、観測する、棄却する、倒壊する、言い渡す、全焼する、怠る、検出する、発注する、供述する、書類送検する、提訴する、主導する、焼ける

(文化)

出演する、手掛ける、放送する、受賞する、表現する、披露する、展示する、着ける、演奏する、ノミネートする、感謝する、共演する、記念する、上演する、着用する、許せる、酷似する、録画する

(スポーツ)

優勝する、制する、獲得する、出場する、下す、所属する、後退する、マークする、記録する、逃す、プレーする、喫する、出遅れる、痛める、フィニッシュする、競り勝つ、連勝する、快勝する、寄り切る、予選落ちする、対戦する

(教育)

いじめる、受験する、受かる、養成する、集計する

形容動詞は全体で「違法だ、堅調だ、堂々、華やかだ、必死だ」の 5 語のみである。

<表9> 特徴語彙の品詞別構成

| 品詞 | 政治 | 経済 | 社会 | 文化 | スポーツ | 教育 |
|----|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 名詞 | 126 (93) | 213 (92) | 176 (90) | 148 (88) | 198 (90) | 119 (95) |
| 動詞 | 9 (7) | 15 (7) | 18 (9) | 18 (11) | 21 (10) | 5 (4) |
| 形動 | 0 (0) | 1 (1) | 1 (1) | 2 (1) | 0 (0) | 1 (1) |
| 合計 | 135 (100) | 229 (100) | 195 (100) | 168 (100) | 219 (100) | 125 (100) |

() の中は割合を示す

一方、特徴語彙の語種別構成を示したのが<表10>であるが、表を見ると、政治、経済、教育の分野では、漢語、混種語、外来語、固有語の順になっているが、文化とスポーツの分野においては、混種語と外来語の順位が逆転していることが分かる。特に、スポーツ分野の外来語 (36%)は漢語 (37%)とはほぼ同じぐらい多く現れている。

全体的には漢語の使用率がいちばん高く、特に、政治分野での使用率が目立っている。また、固有語の使用率は低くなっているが、これは、固有語は基本的な語彙としてよく使われるものが多いということを示しているのであろう。

混種語の語構成要素の中には漢語と固有語が占める割合が高いが、外来語が語構成要素として用いられた語の割合は、政治(8.3%)、経済(16%)、社会(8.6%)、文化(34.6%)、スポーツ(41.8%)、教育(26.6%)のように、外来語の割合が高かったスポーツと文化の分野で外来語を語構成要素として用いる割合も高くなっていることが分かる。各分野別の外来語語彙を示すと以下のとおりである。

(政治)

イラク、PKO

(経済)

～ドル、～バレル、～ポイント、～ユーロ、ATM、EPA、GDP、PS3、TOPIX、グループ、コンビニ、シナリオ、ダウ、デフレ、ブローカー、ベア、ポータルサイト、ホールディングス、モバイル、ユーロ

(社会)

アルバイト、ショベルカー、ゼネコン、パトカー、ファンド、マグニチュード

(文化)

CM、DVD、アイテム、アクセサリ、アルバム、イベント、ギャグ、コレクション、コンサート、ジャズ、シャッター、ジュエリー、シリーズ、シングル、スタイル、スタジオ、スピーチ、ダイヤ、デザイン、ドレス、トレンド、ノミネート、ヒット、ファッション、ファッションエディター、ブーム、ブランド、プロデューサー、プロモーションビデオ、マンガ、ライブ、レコード、ワールドツアー

(スポーツ)

～アンダー、～チーム、～ヤード、～ラウンド、AFC、CC、DF、F1、FIFA、FW、GP、GPシリーズ、GPファイナル、J1、J2、Jリーグ、LPGAツアー、MF、NBA、NFC、NFL、NHL、WBA、アタック、エース、オーバー、オープン、カンファレンス、クラブ、グランプリ、コースアウト、シーズン、シード、ジャンプ、ショートプログラム、スケート、スコア、スタート、スピードスケート、タイ(ひきわけ)、タイトル、タイム、チャンス、チャンピオン、ツアー、トップリーグ、トライ、ドライバー、ノルディックスキーパー、バーディー、バタフライ、ピットイン、ファイナル、フィギュア、フィギュアスケート、フィニッシュ、フェンシング、フリー、プレー、プレーオフ、プロ、ペース、ボギー、ボクシング、ポジション、マシン、マラソン、メジャー、メダル、モール、ライバル、ラグビー、ランキング、リーグ、リード、ローブ、ワールドオープン、ワールドカップ

(教育)

eラーニング、IT、TOEFL、カリキュラム、コーディネーター、シート、ストレス、チェック、パイロット

＜表10＞特徴語彙の語種別構成

| 語種 | 政治 | 経済 | 社会 | 文化 | スポーツ | 教育 |
|----|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 漢語 | 119 (88) | 141 (62) | 147 (75) | 94 (56) | 81 (37) | 95 (76) |
| 混種 | 12 (9) | 51 (22) | 23 (11) | 26 (15) | 43 (20) | 15 (12) |
| 外来 | 2 (1) | 20 (9) | 6 (3) | 33 (20) | 79 (36) | 9 (7) |
| 固有 | 2 (1) | 17 (7) | 19 (10) | 15 (9) | 16 (7) | 6 (5) |
| 合計 | 135 (100) | 229 (100) | 195 (100) | 168 (100) | 219 (100) | 125 (100) |

() の中は割合を示す

4.3 意味分野別構造からの考察

選定した特徴語彙に対して日本語の『分類語彙表一増補改訂版』の意味コードをつけ、それを集計して各分野別の意味分野別構造を示したのが<表11>と<表12>である。『分類語彙表』の意味コードは整数部分と小数部分に分けられるが、整数の部分は（1. 体の類、2. 用の類、3. 相の類、4. その他の類）のように品詞論的な4分類になっており、小数部分は意味項目を表している。小数部分は基本的に4桁までであるが、桁数が増えるにつれて詳細な分類になっている。本稿では、品詞論的な4分類の部分のコードは品詞情報の部分と重なるので除外することにし、分類がいちばんおおまかな小数点以下1桁までと、3桁までのコードを用いて意味分野別の特徴を考察してみる。

<表11>は、意味コードの少数点以下1桁までの意味分野別構造であるが、すべての分野において、<.3>（人間活動—精神および行為）の意味項目の属する語がいちばん多く、その以下はばらつきが見られる。政治、社会、文化、教育の分野では<.2>（人間活動の主体）が2位、<.1>（抽象的關係）は3位になっているが、経済とスポーツの分野では逆転してる。また、<.5>（自然物および自然現象）の意味項目は、社会、文化、教育の分野で出現しているが、特に、社会分野において多く見られるが、そのほとんどが自然環境と事件・事故に関する語である。<.5>（自然物および自然現象）の語彙を示すと以下のとおりである。

（社会）

焼ける、初霜、津波、火災、冷え込み、初雪、積雪、出火、全焼、全焼する、上空、死亡、殺害、自殺、死亡する、殺害する、呼気、重軽傷

（文化）

ダイヤ、嵐、ひまわり

（教育）

いじめ自殺、性感染症

<表11> 全体の意味分野別構造（1桁まで）

| 意味項目 | 政治 | | 経済 | | 社会 | | 文化 | | スポーツ | | 教育 | |
|-------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|------|----|----|----|
| | 度数 | 割合 | 度数 | 割合 | 度数 | 割合 | 度数 | 割合 | 度数 | 割合 | 度数 | 割合 |
| 1. (抽象的關係) | 23 | 17 | 84 | 37 | 32 | 15 | 23 | 14 | 67 | 31 | 19 | 15 |
| 2. (人間活動の主体) | 50 | 37 | 39 | 17 | 54 | 28 | 33 | 20 | 32 | 14 | 41 | 33 |
| 3. (人間活動—精神および行為) | 61 | 45 | 92 | 40 | 74 | 38 | 86 | 51 | 110 | 50 | 60 | 48 |

| | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 4. (生産物および用具) | 1 | 1 | 14 | 6 | 17 | 9 | 23 | 14 | 10 | 5 | 3 | 2 |
| 5. (自然物および自然現象) | 0 | 0 | 0 | 0 | 18 | 10 | 3 | 2 | 0 | 0 | 2 | 2 |
| 合 計 | 135 | 100 | 229 | 100 | 195 | 100 | 168 | 100 | 219 | 100 | 125 | 100 |

〈表12〉は、意味コードの少数点以下3桁までの意味分野別構造の中で、上位5位までの意味項目のみを示したものである。上記の1桁までの考察でいちばん割合が高かった〈.3〉（人間活動－精神および行為）と関連のある意味項目が3桁までにおいて上位に位置していることが分かるが、それ以外にも新しく現れている意味項目も見られる。

全体において、政治、文化、教育の三つの分野で共通する意味項目は、〈.241〉（専門的・管理的職業）であり、政治とスポーツの分野においては、〈.276〉（同盟・団体）の意味項目が共通している。このような意味分野別の情報を通じて、各分野別特徴語彙の意味構造的な特徴を把握することができるし、品詞別、語種別の情報と関連づけて比較対照することもできるのである。各分野の1位の意味項目に属する語彙を示すと以下のとおりである。

（政治）－〈.241〉（専門的・管理的職業）

外相、国家公務員、官房長官、副大臣、長官、行革相、防衛庁長官、閣僚、前首相、総務相、派遣労働者、文民警察官

（経済）－〈.371〉（経済・収支）

安、GDP、デフレ、個人消費、生命保険、設備投資、国内総生産、損保、生保、消費支出、損害保険、円高、赤字、ドル安、円安、不払い、ハイテク株、財政赤字、NY株、ユーロ高

（社会）－〈.306〉（意見・調査・検査）

疑い、容疑、不明、観測する、調べ、捜査、家宅搜索、検察、二審、一審、点検 検出する、判決

（文化）－〈.241〉（専門的・管理的職業）

歌手、建築家、女優、俳優、作曲家、住職、画家、ファッションエディター、プロデューサー、画商

（スポーツ）－〈.337〉（遊楽・スポーツ）

ツアー、～打、競技、競馬、競泳、寄り切る、男子ゴルフ、大相撲、大学ラグビー、陸

上、本塁打、体操、試合後、柔道、国際マラソン、平泳ぎ、F1、LPGAツアー、エース、ジャンプ、スケート、スピードスケート、トライ、ノルディックスキー、パー、バーデー、バタフライ、フィギュア、フィギュアスケート、フェンシング、プレー、プレーオフ、プレーする、ボギー、ボクシング、マラソン、モール、ラグビー

(教育) - <.263> (社寺・学校)

～校、各校、公立小中学校、大学院、都立高、同大学、保育所、私大、小中学校、語学学校、幼稚園、全校、他大学、学部、モデル校

<表12> 小数点以下3桁までの意味分野別構造 (5位まで)

| 分野 | 意味項目 | 度数 | 割合 |
|------|-------------------|----|-------|
| 政治 | .241 (専門的・管理的職業) | 12 | 8.89 |
| | .276 (同盟・団体) | 12 | 8.89 |
| | .363 (人事) | 11 | 8.15 |
| | .308 (規則・制度・案) | 9 | 6.67 |
| | .306 (比較・判断・決定) | 6 | 4.44 |
| 経済 | .371 (経済・収支) | 20 | 8.73 |
| | .190 (値・額・量) | 16 | 6.99 |
| | .373 (価格・費用) | 16 | 6.99 |
| | .264 (事務所・市場・駅など) | 14 | 6.11 |
| | .372 (税・資本・金銭) | 10 | 4.37 |
| 社会 | .306 (意見・調査・検査) | 13 | 6.67 |
| | .361 (裁判・刑) | 11 | 5.64 |
| | .272 (公共機関) | 8 | 4.10 |
| | .243 (長) | 7 | 3.59 |
| | .344 (犯罪・罪) | 7 | 3.59 |
| 文化 | .241 (専門的・管理的職業) | 10 | 5.95 |
| | .383 (興行・出版・放送) | 10 | 5.95 |
| | .368 (待遇・礼・賞罰) | 7 | 4.17 |
| | .316 (文献・目録・暦) | 6 | 3.57 |
| | .324 (演劇・映画) | 6 | 3.57 |
| スポーツ | .337 (遊楽・スポーツ) | 38 | 17.35 |
| | .354 (協力・競争・争い) | 19 | 8.68 |
| | .357 (勝敗) | 18 | 8.22 |
| | .276 (同盟・団体) | 15 | 6.85 |

| | | | |
|----|------------------|----|-------|
| | .152 (移動・走り・巡回) | 9 | 4.11 |
| 教育 | .263 (社寺・学校) | 15 | 12.00 |
| | .306 (研究・調査・検査) | 11 | 8.80 |
| | .241 (専門的・管理的職業) | 9 | 7.20 |
| | .307 (学問・学科) | 6 | 4.80 |
| | .305 (学習・習慣・記憶) | 5 | 4.00 |

5. まとめと今後の課題

これまで、総合的語彙資料である新聞を用いて、各分野の特徴を表す働きをする特徴語彙を選定した。選定においては、統計的な手法による客観的な観点からの選定と、筆者の主観的な判断から選定した上で既存の基本的な語彙からの検証によって重なる語彙を選定から除外する方法を取っている。また、選定された語彙に対して、品詞、語種、意味分野、出現分野、頻度の高低などの種々の情報を作成して各分野別の語彙の特徴を考察してきた。そこから得られた各分野別の語彙の特徴を簡単にまとめると以下のとおりである。

(1) 品詞別の情報においては、名詞の占める割合(90%以上)が非常に高く、各分野の特有の意味を表すのに名詞は大きな役割をしていると言える。

(2) 語種別の情報においては、漢語の使用率がいちばん高く、特に、政治分野での使用率が目立つ。また、スポーツ分野の外来語(36%)は漢語(37%)とほぼ同じくらい多く現れている。

(3) 意味分野別の情報においては、少数点以下1桁までの意味分野別構造では、すべての分野で<.3> (人間活動—精神および行為) の意味項目の属する語がいちばん多く、分野によって違うが、<.2> (人間活動の主体) と<.1> (抽象的關係) が2位と3位になっている。

一方、各分野別の少数点以下3桁までの意味分野別構造の上位3位までは次の順になっている。

(政治)

- 1位 <.241> (専門的・管理的職業) — 官房長官、副大臣、長官、行革相など
- 2位 <.276> (同盟・団体) — 自民(党)、野党、県連、政治団体など
- 3位 <.363> (人事) — 参院選、知事選、立候補、推薦など

(経済)

- 1位 <.371> (経済・収支) — GDP、デフレ、赤字、ドル安、円安など
- 2位 <.190> (値・額・量) — 最高値、発行額、東証株価指数、販売台数など
- 3位 <.373> (価格・費用) — ダウ、下落、原油価格、利上げ、株価など

(社会)

- 1位 <.306> (意見・調査・検査) — 調べ、捜査、家宅搜索、検察、一審など
- 2位 <.361> (裁判・刑) — 訴え、提訴、起訴、不処分、控訴、初公判など
- 3位 <.272> (公共機関) — 気象庁、県警、地検、最高裁、労働局など

(文化)

- 1位 <.241> (専門的・管理的職業) — 歌手、建築家、女優、俳優、作曲家など
- 2位 <.383> (興行・出版・放送) — 生放送、ライブ、公演、上演する、出演など
- 3位 <.368> (待遇・礼・賞罰) — 受賞する、映画賞、作品賞、アカデミー賞など

(スポーツ)

- 1位 <.337> (遊楽・スポーツ) — 競馬、大相撲、陸上、本塁打、スケートなど
- 2位 <.354> (協力・競争・争い) — 開幕戦、決勝、初戦、予選、入れ替え戦など
- 3位 <.357> (勝敗) — 連勝、連覇、引き分け、初勝利、敗退など

(教育)

- 1位 <.263> (社寺・学校) — 公立小中学校、大学院、都立高、保育所 など
- 2位 <.306> (研究・調査・検査) — 大学受験、入試、専攻、TOEFL など
- 3位 <.241> (専門的・管理的職業) — 講師、専門医、教員、教諭など

以上、新聞の分野別「特徴語彙」の選定と語彙情報による考察を試みた。本稿はまだ初期段階の研究であるため不十分なところもあると思う。今後、もっと幅広い資料調査を通じて充実した語彙データを作成して、中・上級の日本語学習者の語彙教育と専門分野の語彙研究資料として役立てることにしたい。

【参考文献】

- ・ 金直洙(2004) 「日韓基幹語彙の比較研究—その選定および意味分野別構造分析を中心に—」 (『比較語彙研究の試み11』 語彙研究会) p 130
- ・ 国立国語研究所(1984) 『日本語教育のための基本語彙調査』 (秀英出版)
- ・ 田中久直(1956) 『学習基本語彙』 (新光閣書店)
- ・ 田島毓堂(1995) 「語彙論の課題—集团的規範と個別的実現—」 (『名古屋大学国語国文学』 71)
- ・ 中央教育研究所(1984) 『学習基本語彙』 (中央教育研究所)
- ・ 土屋信一(1992) 「基幹語彙の探索」 (『文化言語学その提言と建設』 三省堂)
- ・ 林四郎(1971) 「語彙調査と基幹語彙」 (『電子計算機による国語研究Ⅲ』 国立国語研究所) p 2

要 旨

本稿は、総合的語彙資料である新聞を用いて、各分野の特徴を表す働きをする特徴語彙を選定した。選定においては、統計的な手法による客観的な観点からの選定と、筆者の主観的な判断から選定した上で既存の基本的な語彙からの検証によって重なる語彙を選定から除外する方法を取っている。また、選定された語彙に対して、品詞、語種、意味分野、出現分野、頻度の高低などの種々の情報を作成して各分野別の語彙の特徴を考察してきた。

品詞別の情報においては、名詞の占める割合が非常に高く、各分野の特有の意味を表すのに名詞は大きな役割をしていることが分かった。

語種別の情報においては、漢語の使用率がいちばん高く、特に、政治分野での使用率が目立っており、スポーツ分野の外来語は漢語とほぼ同じぐらい多く現れていることが分かった。

意味分野別の情報においては、少数点以下1桁までと3桁までの意味分野別構造を通して各分野別特徴語彙の意味構造的な特徴を把握することができた。

本稿は、まだ初期段階の研究であるため不十分なところもあると思うが、中・上級の日本語学習者の語彙教育と専門分野の語彙研究資料としての基礎データ作りはできていると思う。

キーワード：語彙、特徴語彙、語彙情報、分野別語彙、品詞別、語種別、意味分野別

투 고 : 2007. 5. 31
1차 심사 : 2007. 6. 9
2차 심사 : 2007. 6. 30

住 所 : (305-251) 대전시 유성구 대정동 316-1 트리움아파트 107-601

電 話 : 042-365-4800, 010-6473-8889

e-mail : kimjs3396@hanmail.net